

赤十字奉仕団情報誌

がんば！！

No. 23 (平成 26 年度冬号)



日本赤十字社キャラクター

ハートラちゃん

 日本赤十字社 新潟県支部
Japanese Red Cross Society

目 次

P1 目 次

P2 1 奉仕団活動報告

- ①災害対応
- ②新奉仕団結成！
- ③防災ボランティア地区リーダー養成研修会
- ④奉仕団活動紹介 ～新潟県赤十字安全奉仕団上越市分団～

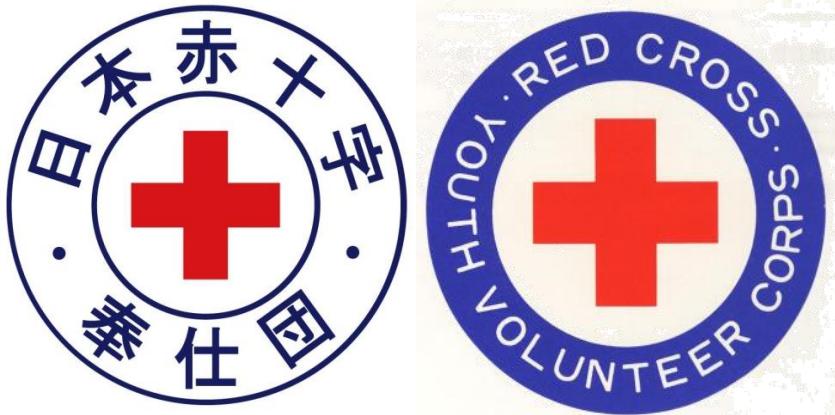
P4 2 赤十字奉仕団リーダーシップ研修会

P5 3 子ども支援事業

- ①ちびっこ海の安全教室
- ②赤十字 親子防災教室 2014

P7 4 新任奉仕団指導講師から

P8 編集者あとがき



1 奉仕団活動報告

① 災害対応

平成 26 年 11 月 22 日（土）22 時 8 分ごろ、長野県北部北安曇郡白馬村を震源とするマグニチュード 6.7 の地震が発生しました。赤十字奉仕団新潟県災害救援機構の方々はこの地震を受け、真っ先に現地へ赴き、活動を行ってくださいました。



5 名の団員が緊急セットや毛布をもち、現地へ赴きました。現地では避難所での避難者の様子の確認や、支部への状況報告等も行いました。

活動を終え、解散したのは午前 6 時頃でした。



② 新奉仕団結成！

今年度、新しく 2 つの奉仕団が結成しました。

新潟青陵大学・新潟青陵大学
短期大学部青年赤十字奉仕団

「心とからだの癒し」
赤十字奉仕団



よろしくお願ひします！！

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
青年赤十字奉仕団の皆さん
(平成 26 年 12 月 9 日 結成式)

③ 赤十字防災ボランティア地区リーダー研修会

平成 26 年 11 月 29~30 日の二日間、新潟市のメイワサンピアで防災ボランティアの地区リーダー養成研修が行われました。リーダーの方も含め、約 30 名の地区リーダー、地区リーダー候補者が参加してくださいました。

搬送や身近なものを使った応急手当など、災害時に必要な技術や知識を学びました



早く治療して！！



傷病者役として、医療チームの訓練にも参加しました。

④ 奉仕団活動紹介～新潟県赤十字安全奉仕団上越市分団～

みなさん、新潟県で有名な桜といえば？と質問されて、すぐにお答えできるでしょうか？？…そうですね、上越の高田公園の桜ですね！

新潟県安全奉仕団上越市分団では、活動の一つとしてお花見シーズンに高田公園内の救護奉仕活動を行っています。お花見会場の巡回や、けがをして訪れた方への応急手当など、来場者がお花見を楽しめるよう、会場を見守っています。

4月に高田公園を訪れた際には、お花見だけでなく、同じ奉仕団員の活動を見てみてはいかがでしょうか？



2 赤十字奉仕団リーダーシップ研修会

平成26年7月12日～13日、長岡市で「赤十字リーダーシップ研修会」を開催しました。奉仕団員として災害時、どのような活動ができるのか、より良い組織作りとは何かなどを学びました。

今年は新潟地震から50年、中越大震災・7.13水害から10年という節目の年。災害対応について関心を持たれている方も多く、60名を超える方々が参加されました。





身近な物を使った応急手当、寸劇による災害対応、リラクゼーション体操などをおこないながら、皆さんの楽しく2日間をすごされていました。

3 子ども支援事業報告

① ちびっこ海の安全教室

7月19日、新潟市関屋浜にて子どもたちを対象とした、「ちびっこ海の安全教室」を開催しました。着衣泳やレスキュー舟体験など、ボランティアスタッフがやさしく丁寧に指導してくださり、子どもたちも楽しく海の安全について学んでいました。



②赤十字 親子防災教室 2014

10月12日、「赤十字 親子防災教室 2014」が小千谷市で開催されました。青年奉仕団の学生や指導講師の方々と、赤十字防災かるたで遊んでみたり、ハイゼックス炊飯袋でご飯を作ってみたりと様々な体験をすることができました。



かるたとれたよ！

防災について勉強中・・・



楽しく防災について勉強
できた1日でした



4 新任奉仕団指導講師から

4月より、新しく小松茂夫 指導講師が奉仕団嘱託指導講師として皆様と共に赤十字活動に参加していただくことになりました。今後も様々な活動や研修会でお世話になるにあたり、これからのお抱負をいただきました。

一緒に力を出して汗出して

阪神大震災から20年の節目を迎え、1月17日は早朝からマスコミが大きく取り上げていた。5時半に目が覚めTVを付けた私は、1万本の竹灯籠「1・17」に集う75,000人の追悼の映像を見、5時46分、一緒に黙とうした。

三宮東遊園地には「震災が奪ったもの 命
仕事 団欒 街並み 思い出 震災が残してくれたもの やさしさ 思いやり 紋 仲間
このあかりは 奪われたすべての命と 生き残った私たちの思いを むすび つなぐ」と刻まれている。

この震災から新しい概念が生まれたという。若い世代のボランティア行動である。その後の災害復興に大きなエネルギーとなり、新しい紋、仲間意識が育まれ、やさしさや思いやりが、お互いに勇気と希望のともしびとなつた。

人は共に力を出し、汗して物事をやり通すと大きな仲間意識・連帯感を感じる。行動を通して人と人とのつながりを求めていくことは、赤十字の精神も同基軸である。

昨年寄せていただいた京ヶ瀬分団での研修会は、「ご婦人たち」の共同作業で、和気あいあいの中にも、地域を守る自助・共助の構えを見せていただいた。ごちそうになりながら、食材が豊富なこの地域の特長を生かし、どんな状況でも温かいものを提供できる組織的取組を一層進めてほしいと思った。

私は、新潟地震の時中学2年生だった。桁の落ちた昭和橋と山ノ下ガスタンク爆発によるキノコ雲、そして信濃川の逆流で採石船が転覆する光景を目の当たりにし、体の震えを止められず眺めていた。あれから50年、奪われた命と生き残った思いを忘れることなく伝え合っていきたいと思う。



嘱託指導講師

小松 茂夫

編集者あとがき

平成 26 年度も残りあとわずかとなってしまいました。初めての方もいらっしゃると思いますのでこの場で自己紹介をさせていただきます。今年度より、日本赤十字社新潟県支部に入社いたしました、奉仕団担当の佐藤稔之（さとう としゆき）と申します。この度初めてこの情報誌、「がんば！！」を作成させていただきましたが、読み応えはいかがだったでしょうか。お伝えしたい情報はこのほかにもたくさんあったのですが、今回はこれが精一杯でした・・・。感想等をいただけたら嬉しいです(^〇^)

さて、今年度は新潟地震から 50 年、中越震災から 10 年と震災からの節目の年であり、各地で防災意識の見直しや研修会が行われました。私も福島県出身であり、あの東日本大震災も地元の郡山で経験した身です（機会があれば当時の私の体験談も話せたらと思います）。皆さんと一緒に私自身も、防災についていろいろ勉強することができました。

2014 年、広島の土砂災害や御嶽山の噴火、長野県北部地震など多くの自然災害が日本各地で発生しました。今年度、日本赤十字社は「災害からいのちを守る」を活動指針として掲げ、新潟県支部では防災ボランティアの体制の見直しと改革を進め始めました。奉仕団の皆さまのご協力がより必要となっています。11 月の防災ボランティア研修では、ボランティア同士の「顔の見える関係」が重要だということが示されました。ぜひ、奉仕団のみなさまには、防災に限らず、他の奉仕団とのつながりをより一層広げていただきたいと思います。

新たな奉仕団が 2 団加わり、奉仕団の皆さまの活躍がより感じられる 1 年でございました。私自身、この 1 年は初めてのことばかりであたふたしまして、奉仕団の皆さまにはご迷惑をおかけしてしまったこともあります。今年度の反省です(+_-+)来年度以降もまた、研修会等でお会いできた際は、お声掛けいただけたらと思います。

これからも、赤十字活動へのご協力をお願いいたします！！

日本赤十字社新潟県支部
事業推進課 佐藤 稔之

「がんば！！」編集局では皆様からの情報を募集しております。「日常の活動を紹介してほしい！」、「こんなイベントがあるから他の奉仕団の皆さんにも来てもらいたい！」というご意見がございましたら、編集局まで情報を寄せください。取材にも赴かせていただきますので、ぜひご連絡ください。

赤十字奉仕団情報誌「がんば！！」NO.23

平成 26 年 2 月 9 日 発行

発行 日本赤十字社新潟県支部 事業推進課

〒951-8127 新潟県新潟市中央区関屋下川原町1丁目3番12号

Tel : 025-231-3121 Fax : 025-231-3122

E-mail : jigyou@niigata.jrc.or.jp

